

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス はなまる東天満店		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な分野に特化した職員がおり、児童の興味関心を追求できる環境が整っており、個別療育にも活用できていること。	個別支援計画に沿い、それぞれの職員の持ち味を生かして、個別支援を行っていること。	室内療育中心であるため、SSTなどはより実践的な取り組みを行い、さらに療育に深みを出していく。
2	療育後に塗り絵や簡単な工作ができたり、手先の巧緻性を向上できる療育玩具がたくさん揃っており、通所を楽しみにしている利用児童が多いこと。	安全面を考慮した上で、平日の余暇時間でも児童が取り組める簡単な工作を取り入れる等を行っている。	療育やイベントで、児童が制作したものをもっと評価できる仕組みを作っていく。
3	日祝には多種多様な療育イベントを企画し、児童が楽しく療育プログラムに取り組めるように工夫をしている。	食育イベントでは、バランスの良い食事を意識し、食べられるかどうかだけのイベントにせず、料理の文化や伝統にも触れた座学も取り入れている。	イベントの内容をさらに充実できるようにするために、利用者のニーズも意識して幅広いイベントプログラムを考案していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童数に対し、空間が狭くなることが見受けられる。	移転前の店舗より部屋数が少なくなってしまったため、空間を分けて療育活動を行うことが従来より難しくなっている。	利用児童の特性に応じ、プレイルーム内をパーティションで区切り療育を行うなど、空間的距離を保ちやすい環境設定を行う。
2	保護者間との連携や地域との連携について、さらなる強化が必要。	事業所内で、保護者間の交流の場や、地域との連携を行うイベント等が殆ど行っていない。	保護者会や、ペアトレーニングなど、保護者間で交流ができる企画や、地域交流を行える企画を行う。また、イベントや日々活動など、保護者への情報発信をさらに増やしていく。
3	職員の定着率向上と、職員の質の向上が必要。	昨年度から今年度にかけて、職員の定着率が低く、また職員の入替わりにより、職員の質の向上も急務となっている。	安全対策や、療育の質の向上を行うための定期的な職員研修を実施し、さらなる職員の質の向上を行い、職員一人一人が仕事をしやすい環境を構築していく。

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスはなまる東天満店

公表日 2026年 2月 23日

利用児童数 7

回収数 5

	チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2	1	1	1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	4	1				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4			1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3	1		1		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、	5					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4			1		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	1			
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	1	1			
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	5					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4			1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が	1	2	2			
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4			1		
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5					
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	5					

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2	2		1	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	1		1	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3	2			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3	1		1	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	4			1	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	4	1			
	29	事業所の支援に満足していますか。	4			1	

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス はなまる東天満店		公表日		2026年 2月 23日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2		新しい教室になり、子どものコーピングする部屋の確保が課題。保護者の面談室と交互に使用して対応している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	談話室があるので静かに過ごしたい児童がいた場合うまく利用出来ていると思う		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	2			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	日々の申し送りやラインでのやりとりで家庭での困りごと課題についての相談援助を行っている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7				
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7				

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		相談支援員さんの訪問での活動計画内容を見にこられたり、必要に応じて保護者と学校の連携がうまくいくように保護者にアドバイスしている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	2		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	2		32、33、34はぜひやりたいです
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	1		
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	4		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		保護者様のご希望、不安、質問に対して迅速に対応し、常にコミュニケーションを取りながら運営できている。	

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		活動の内容をリトムや申し送りだけでなくラインを使って画像を用いるなどして具体的に説明している	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	2	非常事態の対応のために各委員会に職員が配置されている	社内研修を定期的に行い、自己啓発ができるように環境を整えたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	1		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7			

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス はなまる東天満店		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39 (回答者数)	24
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な分野に特化した職員がおり、児童の興味関心を追求できる環境が整っており、個別療育にも活用できていること。	個別支援計画に沿い、それぞれの職員の持ち味を生かして、個別支援を行っていること。	室内療育中心であるため、SSTなどはより実践的な取り組みを行い、さらに療育に深みを出していく。
2	療育後に塗り絵や簡単な工作ができたり、手先の巧緻性を向上できる療育玩具がたくさん揃っており、通所を楽しみにしている利用児童が多いこと。	安全面を考慮した上で、平日の余暇時間でも児童が取り組める簡単な工作を取り入れる等を行っている。	療育やイベントで、児童が制作したものをもちと評価できる仕組みを作っていく。
3	日祝には多種多様な療育イベントを企画し、児童が楽しく療育プログラムに取り組めるように工夫をしている。	食育イベントでは、バランスの良い食事を意識し、食べられるかどうかだけのイベントにせず、料理の文化や伝統にも触れた座学も取り入れている。	イベントの内容をさらに充実できるようにするために、利用者のニーズも意識して幅広いイベントプログラムを考案していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童数に対し、空間が狭くなることが見受けられる。	移転前の店舗より部屋数が少なくなってしまったため、空間を分けて療育活動を行うことが従来より難しくなっている。	利用児童の特性に応じ、プレイルーム内をパーティションで区切り療育を行うなど、空間的距離を保ちやすい環境設定を行う。
2	保護者間との連携や地域との連携について、さらなる強化が必要。	事業所内で、保護者間の交流の場や、地域との連携を行うイベント等が殆ど行っていない。	保護者会や、ペアトレーニングなど、保護者間で交流ができる企画や、地域交流を行える企画を行う。また、イベントや日々活動など、保護者への情報発信をさらに増やしていく。
3	職員の定着率向上と、職員の質の向上が必要。	昨年度から今年度にかけて、職員の定着率が低く、また職員の入れ替わりにより、職員の質の向上も急務となっている。	安全対策や、療育の質の向上を行うための定期的な職員研修を実施し、さらなる職員の質の向上を行い、職員一人一人が仕事を行いやすい環境を構築していく。

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスはなまる東天満店

公表日 2026年 2月 23日

利用児童数 39

回収数 24

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	4	4	2	新しくなってからお伺いしていないので、分からずです。すみません。移転後にお伺いしたことがないのでわかりません	移転後の教室を保護者様に見ていただく機会を作りたく思います。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15	5	1	3		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	3	1	3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20		2	2	床が滑りやすいので靴下で歩いてくると滑りやすくなり、物にならずに転ぶ。靴下なので、滑って転ぶの心配はない。水陸両用の柔らかい靴(滑り止め付き)のようなシューズを提案しても駄目らしく、衛生と滑り止め付きで転倒防止になるのに駄目なのは他の方がやっていないから、やりたいだけやれば良いと思います。	毎日、床の掃除は徹底しており、汚れを発見した際は直ぐに清掃をしております。しかし、どうしても靴下の汚れが気になるという場合は、活動中定期的に足裏を拭くなどの対応を取らせていただいております。今後も継続いたします。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	2	1	1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21		3			
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	1		1		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21	1		2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	2		1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23			1		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	2	8	11		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24				概ね満足しています。	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	2	6	4	保護者向けにペアトレや研修会などがあると嬉しいです。	開催させていただきます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	23	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	1	1			
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	4				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	14	7	12		
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	2		3		
20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	3		2			

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	20	2		2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21			3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	2	2	8		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	2		8	避難訓練の取り組みがあるといざという時に子供が混乱しにくいと思います。	11月に開催しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13	4		7	非常時の対応は確認してないので利用を初めて1年経っていないので年中行事がわからないので訓練などを行なっているかわからない。	非常時の訓練等につきましては、開催後、SNSで発信しておりますが、保護者様へ開催後の様子などの情報発信は十分ではないため、以後取り組みいたします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1		6		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21	3				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21	2	1			
	29	事業所の支援に満足していますか。	19	4		1	新しいものお預けになって毎日になります。デジワービスを利用して思いやる事務がありますが、はなまるは担当しています。大変な仕事だと思えます。感謝しています。これからよろしくお願ひいたします。以前は乳生力の定着率が低かったように思います。今は安定されていると思えますので継続して頂ける事を願ひます。通所して期間ではありますが、子供の特性を専門的に把握されているのは良いと思います。また、トランプル機にクッションとして対応していただけるのが助かっ	職員の定着率を上げるための取り組みも大切にしつつ、今後も運営してまいります。

公表	放課後等デイサービス事業所における自己評価結果
----	-------------------------

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス はなまる東天満店			公表日	2026年 2月 23日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	3		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		報連相の充実	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	2		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4	3		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		ライン連絡の活用	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7			
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	事前の定期的な会議	
非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			